



みずみどり

2025 年 12 月 1 日

第 171 号

発行：いたばし水と緑の会

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

連絡先 坂本 郁子 板橋区中台3-27-E505 090-4618-1295

# 赤塚城址の自然と湧き水

10 月 9 日、エコポリスセンター主催の未来塾で「赤塚城址の自然と湧き水」をテーマに観察会を行いました。ガイドは板橋区環境政策課といたばし水と緑の会です。

## 生物たちの草原「バッタ広場」を観察して

いたばし水と緑の会が管理しているバッタ広場を見てもらいました。最初に、ここは人間のための草原ではなく、生き物たちの草原です。クモの巣もあるし、草もボウボウです。クモの巣があるけど、むやみに払わないでね、と簡単に説明して 10 分間観察してもらいました。以下は参加者の気付きと感想です。

- 知らない小さい虫がたくさんいました。
- 小さいとき遊んだことを思い出した。その全部がここにあると思った。
- クモが大きかった。巣を取ると再び巣を作るのに栄養を取られると聞いて気を付けようと思った
- バッタは柔らかい葉を食べるのかと思っていたが、固い葉が多いと思った。



日当たりによる草の  
茂り方の違いに気が  
付いた参加者の感  
想。

- 草が茂っていると、そうでないところがあった。茂っているところには虫がいた。

- バッタは見つけられなかったが、大きいカマキリを見つけた。エサになる虫が多いと思った。
- 子どもが虫を捕る場所に良いと思った。枝や草が積み上げられ、堆肥のようにっており、虫の住む環境として良いと思った。
- 自然そのままではなく手入れしているので違ってきていると思った。
- 東京育ちだが、小さい頃は自然がたくさんあったのに、今は残そうとしないと無くなってしまうことに気づいた。
- バッタ広場に自然が広がっているのは、すでに自然と人間の共生でできている。
- 昔習った食物連鎖を身近に感じることができた。ミミズがいてそれを鳥が食べに来てというような自然を子どもにも見て欲しい。
- 台地で緑が多く、生き物の隠れる場所があつてよいと思った。
- クズが繁茂している。なぜ他の場所にないのかと思った。
- 「人間のための場所ではない」との言葉が心に響いた。昆虫たちが生き生きしているように感じた。ボランティアの方に感謝。
- 歩きやすく整備してあり良かった。バッタを見ることができず残念だった。
- 引っ付き虫(種)があった。

## 坂本さんのコメント

公園の草地は短く刈り込み、それでよいとされるが、バッタにはチカラシバやススキのような背の高い草が必要です。バッタ広場をつくった当初、雑草がぼうぼうで汚いと大人には評判が悪かったが、虫は多く、子供たちは虫探しに遊びに来ます。

植物は、自然に生えてきたものですが、

植物は日当たりの良い悪しなど、好きな場所を選んで生えてきます。放っておくと森になるので、草地として維持するために手入れをしています。新聞などで、「生物多様性」という言葉を目にします。多様な生き物がかわりあって暮らせる環境―「生物多様性」が地球環境の課題となっています。バッタ広場は、きれいな虫も、地味な虫もそれぞれの食草があり、彼らを食べる肉食の昆虫がいて、街中でありながら生物多様性を配慮している場所です。

「バッタ広場」をよく思ってもらえないのでは」と心配しましたが、評価してもらってうれしいです。



## 湧き水のビオトープ トンボ池と 周辺の湧き水・水質について

ここは、環境政策課自然保護係の坂本孝信さんと鈴木が案内しました。

トンボ池は普段はフェンスに囲まれています。狭いところですが、参加者には入って中も見てもらいました。トンボ池は区民の話し合いで計画され、ボランティアの参加により造られ、水と緑の会が手入れをしています。現在ある植物は荒川や近くの荒川沿いの水辺から移入した水草以外は、自然に生え





てきたものです。生き物が集まる場所(ビオトープ)として維持しています。

水草は地味ですが、ちょうど花が咲いていたタコノアシ(形がタコの足に似ている)を紹介しました(写真左)。またこの日はトンボに出会えませんでした。毎年やって来て、今年も産卵した絶滅危惧種のリシアカネについて説明しました。

水と緑の会の坂本さんからは、トンボの天敵であるザリガニ駆除を週 3 回行っており、昨年は 6000 匹も駆除したけれど、なかなか減らず苦労していると説明されました。会では、

月に 2 回の作業日があり、トンボ池の草刈りや自然観察なども行っています。

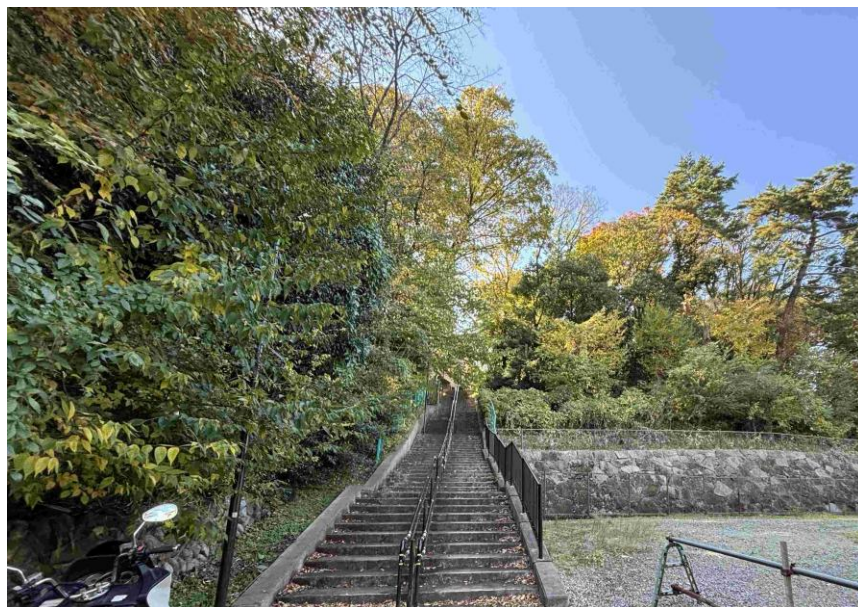
## 湧水量と水質調査

トンボ池の湧水を採水し湧水量とパケットによる水質検査(COD、鉄、pH)をしました。美術館横の湧水の出口で測定したところ湧水量は 9リットル/分で減少気味でした。不動の滝の湧水量は90cc/分とわずかです。

また透視度計(細長いガラスの筒)で透明度を調べましたが、濁ったトンボ池の水の透視度は低く、湧水は透明で1mある底が見えました。

有機物(COD 汚れの量)はグループによって結果がいろいろで、池の水より湧水の方が悪い結果もありました。手の汚れを測定してしまったのでしょうか。

トンボ池の湧水は、大仏下の斜面の地面に埋め込まれた穴あきパイプ(集水管)に集まった水です。付近の石垣下に水のしたたりがみられました。



写真では見えないが、階段のマンホールに湧水が出ている。右の石垣下にも湧水が見える。この斜面一帯が湧水涵養域になる。

浄蓮寺の山すそに緑道があります。かつての小川の名残です。この小川は赤塚体育館あたりから始まり、小川の流域がこの湧水を養う裏山になります。

## 崖線について坂本さんの話

湧水(地下水)の「もと」は雨です。雨は降ると①浸透する(地下水になる)、②流出する(下水に入り、豪雨のときは、浸水被害をもたらす)、③浸透してから地面や木の葉からゆっくり蒸発、します。湧水を守ることは、豪雨災害を防ぐことです。また樹木から水が蒸発することにより、気温を下げ温暖化による猛暑を和らげてくれます。

板橋は崖が多く、崖線には湧き水があり様々な生き物をはぐくむ場所です。一方で土砂崩れなどのデメリットもあります。湧き水を守ることは土砂崩れを防ぐことになります。「自分には関係ない」と思わず、身近な緑を見守って何が出来るか、考えてほしいです。水環境を守るために雨水浸透枳をつける助成制度もあります。(鈴木より子)

# どんぐりまつい観察会の下見

10月25日のどんぐりまつりは残念ながら雨のため中止になりましたが、10月13日にどんぐりまつり観察会の下見を行いました。

赤塚公園サービスセンターから出発し、中央地区の樹木を観察しました。この地区の樹木は植樹されたものになります。

カツラのハート形の可愛い葉はほんのり赤くなり始めていました。葉は甘い良い香りがします。マテバシイはもともと暖かい地方の植物です。どんぐりは2年かけて成熟するため大小の実がついているのを観察しました。クスノキは神社や公園に植えられ、防虫剤の樟脳の原料で、アオスジアゲハの食草です。シラカシのどんぐりは縞々帽子を深くかぶっています(写真下)。



キンモクセイが今年は少し遅い花盛りでした。日本にあるのはオスの木だけという話には驚きました。

ケヤキは枝先の小さな葉の付け根にタネができ、葉のついた枝ごと折れて風にのります。種を遠くに運ぶ自然の知恵を感じました。

道を渡って徳丸が丘緑地地区に移動します。湧水の水路を観察するとアシボソやクレソンが生えていました。坂道を登っていくとお茶の実がなっていました。昔植えたものが今も残っているそうです。

広場につくと、どんぐりがたくさん落ちていました。クヌギのどんぐりは丸くてイガイガの帽子です。木肌がざらざらなのが特徴です。スダジイの実は長く、先の割れた帽子を深くかぶっています。食べるとおいしい木の実です。

広場を出て小道を歩いていきます。植え込みにヤブガラシが絡みついて、絡まれた木に悪そうですが、斜面の縁（ヘリ）の植物は林内の湿度を保つ役割があるそうで、うまく共生しているのだなと思いました。トウネズミモチの実がなっていました。まだ緑色でしたが、熟した実は強壮剤になるそうです。コブシのごつごつした実を観察し、コブシの名の由来に納得しました。

針葉樹のカヤは基盤などに使われる木ですが、楕円形の実をむくと柑橘に似たと良い香りがします。種は炒って食べることができます。

しばらく歩くと松林があり、沢山の松ぼっくりが落ちています。松ぼっくりは濡れているとツバがしぼみ種を守り、遠くに飛ばせる乾燥した日に開きます。

崖下にはオレンジ色のカラスウリの実がなっていました。板橋育ちの小林さんはカラスウリのネバネバを足に塗ると早く走れると言われ、運動会の前になると探したという思い出話をされました。そういう話は他にもあり、自然が豊かにあった時代の子供たちの間に伝わったのでしょうか。

クサギの青い実がきれいに実っていました。染物に使用すると味のある青緑色に染まるようです。球根がごろごろ落ちていたので誰かが捨てたのかと思ったら、ヒガンバナの球根は自然に地上に上がってくるようです。

カエデはまだ緑でしたが、小さなプロペラのような実がついていました。風で遠くに飛ばすためのものです。

ユリノキのユニークな形の葉を観察し、湧水を溜めた池を見て下見を終えました。

（鈴木より子）。

種類	特徴
コナラ	どんぐりの帽子はうろこ状。どんぐりのお尻は凹まない
クヌギ	どんぐりの帽子はおわんのようでトゲトゲ。どんぐりは丸い
シラカシ	どんぐりの帽子はしまもようで、おわん型
スダジイ	どんぐりの帽子はチューリップ型。どんぐりの先がとがる。実は食べられる（おいしい）
マテバシイ	どんぐりの帽子 10 はうろこ状。どんぐりのお尻は凹む。実は食べられる（味はまあまあ）



# プラスチックごみリサイクル」

エコポリスセンター主催のプラスチックリサイクル工場見学に参加しました。足立区にある中間施設工場でした。

この工場では板橋区から 1 日 10 トンほど回収されるプラごみの 4 トンを処理しています。集積場に運び込まれたプラごみの袋を破きベルトコンベアに乗せたプラごみを作業員 6 名が目視と手作業で金属・食品の汚れがついたトレイ等を取り除いています。

約 1 割が可燃ごみとして戻されるそうです。

選別したプラごみは圧縮梱包機によりボールと呼ばれる 300 キロの大きな立方体が作られます。ボールは富山県の工場に送られてさらに選別され、最終的に輸送等に使われるパレットの製品になります。

工場見学に行き中間処理施設工場があることや板橋区のプラごみが富山県の工場で処理されていることに驚きました。

また 11 月 21 日、エコポリスセンターで板橋区職員の方からごみリサイクル事業の講習がありました。

ごみの分別方法など知ることも多くありましたが、プラごみのリサイクル事業については資源ごみに変わって一年ということもあり、今後も区民との話し合いを持ってほしいと感じました。

プラスチックは土に還らない。地球温暖化や経済のことなども考えていかなければと思いました。

(小林悦子)



# ジョロウグモのこと



クモは見つけやすい生き物なのに、無視されて残念です。ジョロウグモ（左写真）は夏から秋に網を張り、網にかかった獲物の体液を吸う肉食の生き物です（足が 8 本あるので、昆虫ではない）。網にかかった大きなカマキリも動けなくなるとクモの勝ちです。写真の大きいのがメス、左下の小さいのがオス。

丸々と太ったクモは秋に産卵して、命を終えます。さて、最近虫が減ったのでは？、ジョロウグモも栄養不足か？ 11 月末、寒くなり、枯葉がしきりに落下して破れた網にジョロウグモが頑張っている姿を見るとちょっと切ないです（坂本 郁子）。

## 活動・観察記録(10月~11月)

### トンボ池

**ザリガニ捕獲** 26回捕獲して417匹回収した。暑かった季節が過ぎて、捕獲個体数は減った。真っ赤な個体は巣穴で冬眠しているらしく、回収したザリガニは中サイズから生まれたばかりの稚ザリガニ。常に繁殖し、成長していく様子がわかり、かなわないなと思う。

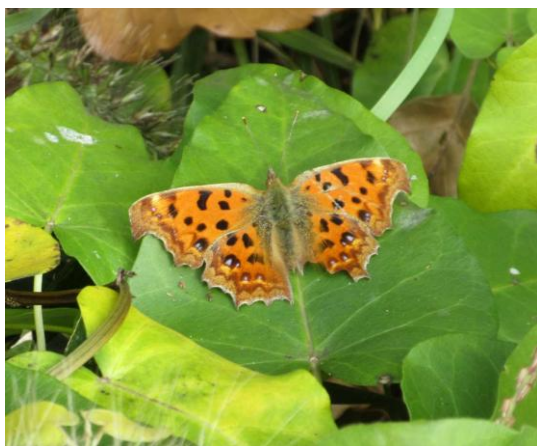


10月30日、トラップ(アナゴカゴ)に大きなヒキガエルが入っていた。誰かが、どこかで捕まえたか、飼っていたヒキガエルを池に捨てたのではないかと思う。ヒキガエルはこの時期は陸で昆虫などを食べて過ごし、水場には来ない。トラップから出したカエルは藪の中に消えていった。

キチョウ、アカボシゴマダラ、アカボシゴマダラ幼、コムスジ、ジョロウグモ、ホシホウジャク(11月15日涼しくなっても飛来し水浴びをした)、オオスズメバチ、スズバチ、ニホンミツバチ、アキアカネ、オンブバッタ、アミガサハゴロモ(外来)、ツマグロオオヨコバイ、ヤマガラ、シジュウカラ、

### バッタ広場

クビキリギス、オンブバッタ、ツチイナゴ、ササキリ、オオカマキリ、カマキリ卵、キチョウ、キタテハ、ヒメアカタテハ、ツマグロヒョウモン、アゲハチョウ、ベニシジミ、モンシロチョウ、シマノメイガ、ナガコガネグモ、ジョロウグモ、ハラナガツチバチ、マルカメムシ、ツヤアオカメムシ、アキアカネ、イトトンボ、ガガイモにアブラムシ、オギにアブラムシ、ルリマルミノハムシ(クビキリギス、ツチイナゴ、カマキリ少なかった)



左：トンボ池やバッタ広場でよく見かけたキタテハ。冬でも暖かい日には姿を見せる(成虫で越冬)。右はセイタカアワダチソウにきたハラナガツチバチです。セイタカアワダチソウは外来種ですが、昆虫がよく来るので、花が咲いている間は抜かずにいます。花もきれいです。

# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は 坂本まで 090-4618-1295

高齢社会での活動です。作業はほどほどに、お楽しみや探検を取り入れてやっていきます。会員の方も会員でない方も、無理をしないでご参加ください。カマなど道具は用意します。保険は個人で加入してください。

## ●赤塚ビオトープの手入れ

赤塚トンボ池 板橋美術館横の小さな池です。生き物たちのための土の池です。

バッタ広場 赤塚城址の郷土資料館の上あたり。生き物たちが暮らす草原ビオトープです。

活動日時（第2日曜日と第4土曜日）

12月14日（日）10時～11時半

12月27日（土）10時～11時半 トンボ池の枯れ草とササを刈ります

1月11日（日）10時～11時半

1月24日（土）10時～11時半

集合場所 赤塚トンボ池

持ってくるもの 汚れてもよい服装（長袖、長ズボン）と汚れてもよい靴、作業手袋、帽子、飲み物、

## ●日暮台公園と樹林地の観察 工事中のため休みます

## ●環境なんでも見本市

いたばし水と緑の会も出展します。

2月7日（土）12時～16時（開会式11時30分）

2月8日（日）10時～16時

●ボランティアの参加を歓迎します。ご意見や自然情報もお寄せください。

ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があります。不定期ですが区外の自然や保護活動の見学も実施しています。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。